The Association of Art Education Newsletter

美術科教育学会通信 No.100 2019.02.26

□巻頭言　□第４１回美術科教育学会北海道大会案内（最終案内・研究発表一覧）
□本部事務局より

巻頭言

新しい時代に向けて　- 美術科教育学のパラダイム構築 -

代表理事　水島尚喜（聖心女子大学）

芸術教育の将来

昨年 10 月における文化芸術振興基本法一部改正を踏まえた文部科学省設置法の改正により、文化庁は、学校における芸術に関する教育の基準の設定に関する事務及び博物館による社会教育の振興に関する事務をつかさどるよう組織再編されました。この芸術教科に関わる文部科学省から文化庁への事務移管措置について、通達文書では従来通りの「学校における芸術に関する教育の基準の設定に関する調査審議は,引き続き,中央教育審議会初等中等教育分科会において行うこと」が示されています。しかしながら一方では、新しい時代の文化芸術教育の動向として、今後注目すべき内容であることが予想されます。

学校教育における芸術教科が、国民の芸術に関わる資質･能力形成に大きく貢献してきたことは事実です。比較文化的視点からも特に初等・中等教育段階において我が国の芸術教育は、大きな成果を残してきたと言えるでしょう。そして学校教育において子どもたちが、豊かな文化的環境と相互浸透しながら芸術的な実践に参与することは、今後ますます重要性を持つのではないでしょうか。

しかしながらその一方では、芸術教科が、学校という枠組みの中にあるがゆえに、芸術に関わる体験が他教科と同じ位相にあるものとして、共通の論理に押し込められていた側面は否めないと思います。とりわけ昨今の急速な社会的変化に対応する教育改革の波によって芸術教育の在り方やその形態にも様々な変容がみられるようになりました。また、現在における芸術教育希求の機運は、戦後の創造美育運動などの時間帯と見比べて、さほど高くはないことも事実でしょう。さらには、人間が古来より持ち続けていた芸術的実践の本質的な価値が見失われるのでないかという危機感も少なからず存在するのではないでしょうか。新しい時代に即しつつも、芸術的実践の価値や本質を見失わない根拠を広く示していくべき時機であると考えます。

ここにおいて文化・芸術に関わる新しい時代の教育実践の基盤となるパラダイムの構築が求められます。その内容は、単に学校教育をカッコ付けにすることや「子どもの成長発達と教育」という旧来の枠組みからは、可視化できないかもしれません。美術教育においても､「新しい時代に向けてディシプリンとして美術教育学は成立するのだろうか？それは子ども達の生命とどのように響き合うことが可能なのだろうか？」等の絶え間ない問い返しの中での糸口探しとなるでしょう。国の芸術文化を先導する組織体によって芸術教育の形が今後どのように投影されるのか、我々の構想力、真の想像力が問われています。

H・リードの芸術教育理念

戦後の芸術教育に大きな影響を与えた著作として、

ハーバート・リード（Herbert Read,1893~1968）の『芸術による教育（“Education through Art”初出1943、邦訳は1953美術出版社刊）』が知られています。リードは、詩人として出発し、美術批評家として教育から政治まで鋭く文化的事象を評していました。第二次大戦の状況下に構想されたこの著作は、「芸術を教育の基礎とすべきである」という命題に基づいています。プラトン以来、この命題は具現化することなく今日に至っているとリードは指摘していますが、現代にこのリードのアナーキズムを直接導入することは、非現実的と言えるかもしれません。しかしながら今日の文化的または教育の状況を鑑みて、リードの理念と現在の状況における位置関係は、対極にあるのではなく、相似形を描いているようにも見えるのです。

著作では、社会創成の観点から想像力形成の視点は不可欠であり、生物学、心理学、社会学、哲学等の分野の研究を駆使して、個々の知覚タイプの関係性を示すことで、想像力育成の重要性を指摘しています。効率主義、成果主義に傾斜しがちな現在の教育界にとって、今日的にも傾聴すべき内容であると言えるでしょう。

リードは、UNESCO すなわち国際連合教育科学文化機構（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization ）の諮問機関である InSEA、国際美術教育学会(International Society for Education through Art)の創設（1954年）に貢献しています。UNESCO は、文化、科学、教育の普及活動によって国際平和と人類の福祉の普及発展に務める国際連合の専門機関ですが、その設立の背景には２度に渡る世界大戦がありました。そして、その諮問機関である InSEA の組織名称は、リードの“Education through Art”に由来することは、よく知られています。リードは、初期の UNESCO における科学主義を批判し、「同じ真実について、芸術は表現し、科学は説明する」とし、一見すると対立する芸術と科学は同根であることも指摘しています。さらに、ヨーロッパ中心のグローバル主義に対しても。

一連のリードの理念は、当時の科学万能主義に対しての「カウンターパート」として、機能しました。さらには国内の戦後復興期における民主主義を背景に、民間美術教育運動の推進力となり、創造主義の源泉ともいえる存在ともなりました。リードは、教育の目標を「すべての知力や道徳心の基盤は、知覚と外界、個人と組織との適切な統合にある」とし、「その統合は、教育の方法によってのみ、達成される」としています。さらに、リードは初等教育において「遊び」すなわち、「芸術活動になり得る形式ばらない活動」や、教科の枠を超えて統合して学習が進められるべきと主張し、今日の「造形遊び」や「総合化」等の初等美術教育の源流となる概念を示唆しています

教育のパラダイムシフト

リードに遅れること約半世紀、UNESCO は 1996年に、２１世紀の教育の再構築を目指して『学習：秘められた宝（原題：Learning: TheTresure Within）』を発刊しています。この内容は、平和や自由といった社会的価値の実現には、教育が不可欠であるという確信のもと、教育の本質を「学習の４本柱」として概念規定しています。その４本柱とは、「知ることを学ぶ（Learning to know）」、「為すことを学ぶ（Learning to do）」、「共に生きることを学ぶ(Learning to live together)」、「人間として生きることを学ぶ(Learning to be）」でありました。これらの内容は、リードの“Education through Art”の構想に相似形を描くものです。すなわち“Education by Art”、“Education of Art”または“Education on Art”でもなく、“Education through Art”すなわち「芸術経験を通して、人間になる。」という理念の具体化と受け止めることができます。

近代社会のシステムとして誕生した学校という存在は、欠損したジグソーパズルの一部を埋めるという機械論的な発想に基づいていたのではないでしょうか。近代の学校教育が主眼としたユニット的なサブジェクトを投げ与える伝統的な知識技能習得型の学習形態から、学習者を巻き込みながら互酬性のある生成的な価値形成、自己変容、社会変容が、現在求められています。「投げ与え」や「啓蒙」から脱却するキーワードが、「芸術教育」や「遊び」であることをリードは、見抜いていたのです。

さて、ご周知のように、美術科教育学会は1979年に設立され、1990年には第15期日本学術会議登録研究団体となり、現在では日本学術会議の協力団体として着実な発展を続けています。その間、美術教育に関わる研究を鋭意進めてきました。美術教育学という領域は、美術教育の実践と理論を架橋し、芸術教育のみならず様々な学問領野の交差点に位置しています。そのような美術教育学の在りようを見据えながら、「形、色、イメージ」等によって世界を生き生きと体現できる教育の筋道を明示することは、本学会の大切な使命です。同様に、美術教育という現象および制度に対して、良い意味でのアカデミズムの観点から、正当にコミットしていくことは、芸術教育、美術教育学の発展と子ども達の未来にとって必須の構えと言えるでしょう。

子どもの自己形成空間の中で、美術教育という営為が学校空間のみならず社会的な文脈の中で今後どのように位置付けられるのか、また学校教育と文化政策や文化的インフラが有機的に関連づけられる方策など、学術的な観点から本学会が果たすべき役割は今後さらに大きくなっていくと言えるでしょう。我々は、「美術教育学」の観点から、現時点のみならず未来に対しても責任を持っているのですから。

北海道大会（最終案内）

第 41 回美術科教育学会北海道大会

大会実行委員長　佐々木　宰(北海道教育大学)

イサム・ノグチが設計したモエレ沼公園

第 41 回美術科教育学会北海道大会

平成 31（2019）年３月 26 日（火）・27 日（水）

大会テーマ　「新たな時代を築く美術教育」

ごあいさつ

第 41 回美術科教育学会北海道大会を、札幌大谷大学（北海道札幌市）を主会場として開催します。本年は改元を控えていますので、この北海道大会は、「平成」最後の美術科教育学会大会となります。

様々な出来事があった平成の 30 年を経て、学会員はもとより多くの美術教育関係者が一緒になって、新たな一歩を踏み出す大会にしたいと考えております。多くの皆さまのご参加を心からお待ちいたします。

北海道大会ホームページ
https://sites.google.com/view/artedu-hokkaido

※学会ホームページ（http://www.artedu.jp）からリンクされています。

■主催　美術科教育学会
■共催　札幌大谷大学、北海道教育大学
■後援　北海道教育委員会、札幌市教育委員会
■会期　2019 年 3 月 26 日（火）・27 日（水）
■主会場　札幌大谷大学
（札幌市東区北 16 条東 9 丁目 1 番 1 号）
■懇親会会場　ホテルライフォート札幌
（札幌市中央区南 10 条西 1 丁目）
■理事会会場　北海道教育大学札幌駅前サテライト
（札幌市中央区北5条西5丁目　sapporo 55　4 階）

■大会日程

前日理事会　2019 年 3 月 25 日（月）
【北海道教育大学札幌駅前サテライト】
15:00　理事会　（17:30 終了予定）

大会第 1 日目　2019 年 3 月 26 日（火）
【札幌大谷大学】
8:30　受付（百年記念館入り口）
9:00　開会式（百年記念館同窓会ホール）
9:30　研究発表Ⅰ（中央棟３階講義室）
11:45　昼休み
13:00　研究発表Ⅱ（中央棟３階講義室）
15:30　研究部会（中央棟２階演習室）
17:00　移動（地下鉄等）
【ホテルライフォート札幌】
18:30　懇親会（20:30 終了予定）

大会第 2 日目　2019 年 3 月 27 日（水）
【札幌大谷大学】
8:30　受付（大谷記念ホール入り口）
9:00　シンポジウム（大谷記念ホール）
11:00　総会（大谷記念ホール）
11:30　昼休み
12:40　研究発表Ⅲ（中央棟３階講義室）
（15:30 終了予定）

■シンポジウム「新たな時代を築く美術教育」
・シンポジスト：　中村珠世（北海道教育大学附属札幌小学校教諭）、更科結希（北海道教育大学附属釧路中学校教諭）
・講演：岡田京子（文部科学省教科調査官・国立教育政策研究所教育課程調査官）
・司会：阿部宏行（北海道教育大学教授）
※このシンポジウムは学会員以外に無料で公開します。

■学会参加費・懇親会費
※事前申し込みが 500 円お得です。

	学　会		懇親会	
	事前申込	当日受付	事前申込	当日受付
正会員	4,500 円	5,000 円	5,000 円	5,500 円
非会員*	5,500 円	6,000 円	5,000 円	5,500 円
大学院生等**	2,500 円	3,000 円	3,500 円	4,000 円

*大学院生を除く。**社会人を除く。正会員を含む。

※「大学美術教育学会」又は「日本美術教育学会」の会員は本学会会員と同様に、正会員の料金で参加できます。その旨を、払込用紙の通信欄にご記入ください。

※お弁当の用意はしていません。また，大学の学生食堂や売店も閉店中ですが、大学周辺にはレストラン、食堂等の各種飲食店、コンビニ等が多数あります。

■事前参加申込み

（1）学会参加申込み

事前参加申込みをされる方は、下記の要領をご確認いただき、第 41 回美術科教育学会北海道大会のホームページにアクセスし､「オンライン大会登録受付システム」から登録・申込みをしてください。

・オンライン大会登録受付システム

https://www.e-naf.jp/meeting/ENAF/artedu41/member/

※上北海道大会ホームページからリンクされています。

※登録後､「参加登録受付メール」が届きますのでご確認ください。

※事前申込みの参加費・懇親会費の支払いには、同封の「払込取扱票」をご利用の上、2019 年 2 月 28 日（木）までに払込んでください。

※入金締切日までにご入金いただけない場合、事前参加登録は自動的にキャンセルされます。

（2）申込締切

②事前参加登録及び参加費払込締切：2019 年 2 月 28 日（木）24 時

締切日・時刻を過ぎるとオンラインシステムで登録は出来なくなります。余裕をもって、期限までに登録してください。不明な点があれば、大会システムサポートデスクまで、電話・メールにてご相談ください。

（3）オンライン登録システムに関する問合

（※参加申込、発表申込、概要集について）

第 41 回美術科教育学会北海道大会システムサポートデスク（中西印刷株式会社）

Tel: 075-415-3661

E-mail: artedu41@nacos.com

（4）大会に関する問合

第 41 回美術科教育学会北海道大会運営事務局

・事務局長　花輪大輔（北海道教育大学）

Tel: 011-778-0968（研究室）

E-mail: hanawa.daisuke@s.hokkyodai.ac.jp

（5）年会費・入会・その他会員資格等に関する問合

本部事務局支局（ガリレオ学会業務情報化センター）

Tel: 03-5981-9824

Fax: 03-5981-9852

E-mail: g030aae-galileo@ml.gakkai.ne.jp

■札幌大谷大学までのアクセス

○地下鉄

・東豊線「東区役所前」駅下車、２番出口から徒歩 7 分

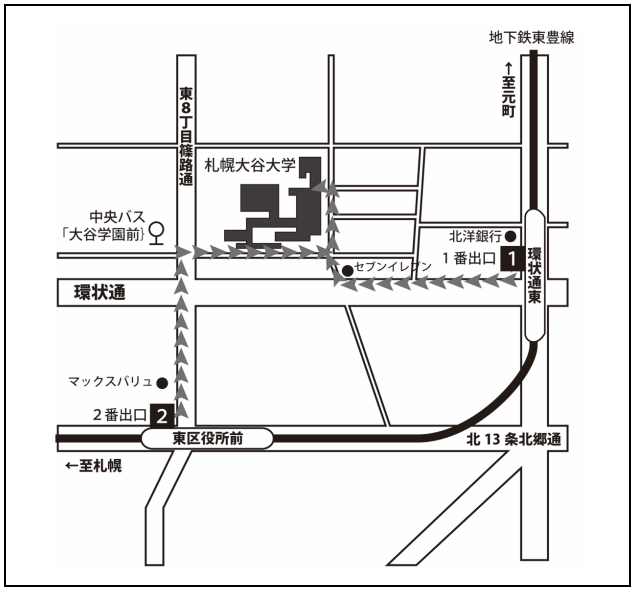
・東豊線「環状通東」駅下車、１番出口から徒歩 7 分

○中央バス

・東 17 北光線「大谷学園前」下車、徒歩 5 分

・東 19 北光・北口線「大谷学園前」下車、徒歩 5 分

※自家用車での来場はご遠慮ください。



■国内各地から札幌市へのアクセス

○国内の多くの空港から新千歳空港への直行便が就航しています。所要時間は以下を目安にしてください。

・東京羽田～新千歳　約１時間 35 分

・大阪伊丹～新千歳　約１時間 45 分

・福岡～新千歳　約２時間 15 分

○新千歳空港から札幌市内へのアクセス

・JR　新千歳空港駅から「快速エアポート」で札幌駅まで約 40 分

■宿泊について

宿泊の斡旋はしませんので、ご自身での手配をお願いします。札幌市内には多数のホテルがありますが、近年の観光客の急増により、ホテル予約が困難になることも予想されます。できるだけ早めのご予約をお勧めします。

また､近郊の小樽市､千歳市にもホテルはあります。JR 快速で、札幌駅から小樽、千歳駅までの所要時間は 30～40 分程度です。

■研究発表と研究部会の日程

【第１日目　３月 26 日（火）】

研　究　発　表　Ⅰ（24 発表）							
		A （3F 講義室 3）	B （3F 講義室 4）	C （3F 講義室 5）	D （3F 講義室 6）	E （2F 演習室 7）	F （2F 演習室 8）
①	09:30- 10:00	長島春美 （東京都立田柄高等学校） イメージが思考を呼び覚ます−造形活動と言語活動をつなぐ試み−	渡部晃子 （帝京科学大学） 霜田静志の鑑賞教育 −その実践と方法−	矢澤　聡 （沖縄カトリック小学校） 西村徳行 （東京学芸大学） 山田芳明 （鳴門教育大学） 地域訪問型研究会「図工のおきぐすり」の活動について	小口あや （茨城大学） 図画工作・美術科の絵画指導における一般的禁止事項の指示　−実態調査−	山口喜雄 （元 宇都宮大学） 日本美術科教科書の美術史年表に掲載された日本美術作品の研究	田端智美 （桜花学園大学） 幼児の造形遊びにおける自立心・協同性についての成立過程
②	10:05- 10:35	松浦　藍 （岡山市立福浜中学校） 色彩の感情効果が生徒の表現活動に与える影響についての一考察−色彩感情効果学習とカラーシステム学習による比較から−	古田啓一 （小田原短期大学，名古屋サポートセンター） 知識構成型ジグソー法を用いた美術鑑賞の授業デザイン	荒川　洋子 （新潟市立東新潟中学校） アートを生かした地域教育活性化の可能性について−リサーチフォーラム in 新潟（「大地の芸術祭」）「松之山オープンキャンパス」を振り返って−	有田洋子 （島根大学教育学部） 美術教育学の制度的基盤の成立過程―宮城教育大学―	湯川雅紀 （関西福祉科学大学教育学部） 【絵画・以降】の時代における図工・美術科の題材開発 −ブライス・マーデンの線と色彩による絵画教育−	大塚習平 （東京都市大学人間科学部） 発達段階と子どもの造るかたち１−世田谷区立保育園における粘土の活用状況から−
③	10:40- 11:10	守屋　建 （東京学芸大学附属小金井小学校） 子供の視点の拡張を図る学習環境デザイン研究	平野智紀 （内田洋行教育総合研究所，東京大学大学院） 鈴木有紀 （愛媛県美術館） 対話型鑑賞のファシリテーションにおける「どこからそう思う？」の意味	竹丸　草子 （群馬大学大学院教育学研究科 美術領域） アーティストのワークショップ型授業におけるコーディネーターの役割についての考察−コーディネーターは何を見て、何をつないでいるのか−	相田隆司 （東京学芸大学） 大根田友萌 （東京学芸大学附属小金井中学校） 大櫃重剛 （東京学芸大学附属世田谷小学校） ベテラン教員の題材をめぐる大学生の実践的理解の様相に関する考察	保富仁之 （和歌山県立田辺高等学校） ［絵画・以降］の時代に構想する絵画教育の題材開発 −ミニマル絵画の題材がもたらす教育的効果について−	香月欣浩 （四條畷学園短期大学） 支援者の態度が子どもの造形活動に与える影響について−言葉かけと道具の変容の視点から−
④	11:15- 11:45	畑山未央 （東京家政大学） 結城孝雄 （東京家政大学） 佐藤真菜 （鳥取県立博物館） 村上尚徳 （環太平洋大学） デジタル教育普及ツールを活用した図画工作科の出前授業−動機付けモデルに基づくツールの開発と学習環境の構想−	岡田匡史 （信州大学教育学部） ハンス・メムリンク「聖ヨハネ祭壇画（1479 年）」右翼の読解的鑑賞の試み−「ヨハネの黙示録」の記述内容と連関する諸図像の発見と学習を中心に−	住中浩史 （アーティスト・群馬大学大学院） 鈴木紗代 （群馬県前橋市立第六中学校） 小田久美子 （アートコーディネーター） 茂木一司 （群馬大学） アーティスト・イン・スクール（AIS）の挑戦Ⅱ−ＡＩＳ二年目の取り組みと課題、アーティストと美術教師の関係性の分析より−	宮川紀宏 （鳴門教育大学大学院，鳴門教育大附属小学校） 山田芳明 （鳴門教育大学） 教科内容としての「造形遊び」導入時の捉え方についての考察−テキストマイニングの手法から−	松尾　豊 （前高岡第一高校） 納富介次郎と美術教育（３）−アートの公共性と美術・工芸教育上の価値	樋口和美 （福岡女子短期大学） 犬童昭久 （九州ルーテル学院大学） 王寺直子 （認定こども園あかさかルンビニー園） 栗山裕至 （佐賀大学） 白石恵里 （中村学園大学）， 丁子かおる （和歌山大学） 前村　晃 （佐賀大学名誉教授） 宮崎祐治 （神野こども園） トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅰ−予備テストから見えてくるもの−

研　究　発　表　Ⅱ（24 発表）							
		A 発表室 (3F 講義室 3)	B 発表室 (3F 講義室 4)	C 発表室 (3F 講義室 5)	D 発表室 (3F 講義室 6)	E 発表室 (2F 演習室 7)	F 発表室 (2F 演習室 8)
①	13:00- 13:30	村田　透 （滋賀大学） 「造形遊び」における子どもの探究行動–幼児期の「造形遊び」の事例より–	佐藤哲夫 （新潟大学） ペアによる自由鑑賞の分析と評価	松井素子 （東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科） 持続可能な社会づくりの担い手を育むための美術教育の題材	山田芳明 （鳴門教育大学） 大西洋史 （関西国際大学） 西尾正寛 （畿央大学） 教科内容としての「造形遊び」の認識に関する一考察–教員及び学生へのアンケートをもとに–	牧野由理 （埼玉県立大学） 東京造画館の掛図に関する研究	茂木一司 （群馬大学） 大内　進 （独立行政法人国立特別支援教育総合研究所） イタリアにおけるインクルーシブな視覚障害のための美術鑑賞
②	13:35- 14:05	濱脇みどり （西東京市立青嵐中学校） 中学校題材としての水墨表現の可能性	浜岡　聖 （筑波大学大学院 人間総合科学研究科 芸術専攻 博士前期課程） 美術館における保存修復に関する展示・教育普及活動	加藤克俊 （豊橋創造大学短期大学部） 「夢」をテーマとした児童画の制作について－イ・マエストリ 2018 このは美術館に向けた活動より－	西尾正寛 （畿央大学） 山田芳明 （鳴門教育大学） 西端律子 （畿央大学） 学生の図画工作科指導に関する資質・能力の育成方法に関する試み	柳沼宏寿 （新潟大学教育学部） 戦時中に子どもが絵を描くことに関する一考察–フリードル・ディッカーと佐藤哲三の実践を通して–	多胡　宏 （群馬大学大学院） 視覚障害児（盲児）のための色彩教材・題材の開発
③	14:10- 14:40	布山タルト （東京藝術大学大学院映像研究科） アニメーション題材の複合的なねらいを解きほぐす	新関伸也 （滋賀大学教育学部） 村田　透 （滋賀大学教育学部） カナダ・オンタリオ州における芸術教育–芸術教育カリキュラムの特徴及び芸術学校と美術館調査を通して–	梶原千恵 （群馬大学教育学研究科） 社会と関わる美術教育についての一考察 –東日本大震災以後のアート・プロジェクト参加生徒インタビューを通して–	大西洋史 （関西国際大学） 図画工作科の授業における教師のパフォーマンスについてⅣ–PF-NOTE を用いた教師のパフォーマンスの分析に関する一考察–	前沢知子 （東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科） 描画と地域との関係性についての一考察–竜丘小学校の自由画教育から–	森田　亮 （筑波大学附属桐が丘特別支援学校） 重複障害児の図工・美術科指導のための教科ルーブリックの開発
④	14:45- 15:15	箕輪佳奈恵 （筑波大学芸術系） 美術文化を応用した表現活動実践モデル構築に向けた試み	吉田奈穂子 （筑波大学大学院） アジア地域のシュタイナー学校における造形教育の展開	池田吏志 （広島大学） 大江登美子 （佐賀女子短期大学） 北島珠水 （秋田県立栗田支援学校） 柴田洋佑 （広島県立福山北特別支援学校） 髙橋智子 （静岡大学） 共生社会の実現を目指す複数校種等での同一題材実施プロジェクト	佐藤昌彦 （北海道教育大学） 渡邊晃一 （福島大学） 宮脇　理 （Independent Scholar／元・筑波大学） ダ・ヴィンチ：“五千枚の手記”に視る「科学からアートへ・アートから科学へ」の構想世界	大島賢一 （信州大学） 『長野県内小学校聯合教科研究会図画手工研究録』に見る白樺派教師の美術教育思想	佐藤絵里子 （東海大学短期大学部） 日本の保育者養成校における造形教育の学びと課題に関する考察–質問紙調査に基づく養成校教師と現役保育者の比較から–

研　究　部　会（６部会）						
	A 発表室 (3F 講義室 3)	B 発表室 (3F 講義室 4)	C 発表室 (3F 講義室 5)	D 発表室 (3F 講義室 6)	E 発表室 (2F 演習室 7)	F 発表室 (2F 演習室 8)
15:30-17:00	授業研究部会	工作・工芸領域研究部会	造形カリキュラム研究部会	インクルーシブ美術教育研究部会	美術教育史研究部会	乳・幼児造形研究部会

【第２日目　３月 27 日（水）】

研究発表Ⅲ（19 発表）							
		A 発表室 （3F 講義室 3）	B 発表室 （3F 講義室 4）	C 発表室 （3F 講義室 5）	D 発表室 （3F 講義室 6）		
①	12:40- 13:10	立原慶一 （宮城教育大学） エドヴァルド･ムンク作『春』の鑑賞−「死に向かう姿勢の捉え方」をめぐって（中学３年生の場合）−	金子一夫 （茨城大学教育学部） 贈与交換システム論的美術教育学における参照源の概念−その形成と参照過程の考察−	赤木恭子 （熊本大学） 地域社会に表象する映像メディア表現を活用した対話的な場と学修の可能性−身近な題材をイメージングリソースとしたニュース番組制作の実践から−	髙橋文子 （東京未来大学） 3-5 歳児の記憶を基にした描画に関する調査		
②	13:15- 13:45	田中　千秋 （せんだいメディアテーク） せんだいメディアテークにおける協働的な学びの実践−「メディアスタディーズ」の事例から−	山田一美 （東京学芸大学） 美術科教育のための想像･構想理論とその循環的特質	宮嵜　浩 （仁川学院小学校） まちづくり活動としての図画工作科−学校外部のオープンスペースとして公共空間を位置づけて−	北野　諒 （大阪成蹊短期大学） 美術室で米を炊く−「造形遊び」から「関係遊び」へ−		
③	13:50- 14:20	中村珠世 （北海道教育大学附属札幌小学校） ＜指導事項＞の立体化から題材づくり及び授業改善を考える	立川泰史 （東京家政学院大学） 社会的創造性としてのイメージの比喩的生成について	宇田秀士 （奈良教育大学） 美術教育の「遊び」概念における＜アートの拡張＞について−実際の授業像や教師の意識をふまえて−	橋本　忠和 （北海道教育大学函館校） ロボットを活用した幼児の造形表現活動のプログラミング教育としての可能性についての一考察		
④	14:25- 14:55	浅場正宏 （神戸芸術工科大学，アトラス） 美術教育におけるプロジェクト学習とノンバーバルコミュニケーションゲーム	竹内晋平 （奈良教育大学） 橋本侑佳 （同志社中学校） 鑑賞的体験の言語化を通した美術の俯瞰的理解Ⅱ−プロダクトデザインの鑑賞における発問設計とその効果を中心に−	蝦名敦子 （弘前大学） 子供の造形活動による空間把握に関する実践的考察−同一の場所で表現活動をした中学２年生と小学６年生の授業を通して−	阿部宏行 （北海道教育大学岩見沢校） 学習指導要領（図画工作）と題材		
⑤	15:00- 15:30	工藤雅人 （北海道教育庁空知教育局） 北海道における美術教員数の変容等から見る美術教育の課題	根山　梓 （札幌市立平岡緑中学校） 北海道における自由画教育運動前の図画教育	笹原浩仁 （福岡教育大学） 子どもたちのための楽器づくりの研究−楽器の展開			

本部事務局より

■第 41 回学会北海道大会の総会での委任状について

平成 30（2018） 年度総会は，第 41 回美術科教育学会北海道大会の２日目，2019 年 3 月 27 日（水）の 11 時 00 分より 11 時 00 分までの時間帯で開催予定です。会則で定めていますように，総会は，学会の事業及び運営に関する重要事項を審議決定する学会の最高議決機関であり，会員の５分の１以上（ 委任状を含む）の出席がなければ成立しません。やむを得ない事情で総会に欠席される方は，同封の委任状（はがき）に必要事項を記入，押印の上，3 月 13 日（水）までに投函してください 。

■2019会計年度の会費納入お願いします。

学会運営は，会員の皆様の会費により運営されています。2019会計年度は１月より12月までですが，2019年8月末から9月初旬の理事会にて会員名簿の報告・承認をしますので，7月31日までに納入いただくようお願いいたします。また，2018会計年度までの学会費未納の方は，至急全額納入をお願い致します。皆様の会費により学会誌刊行，３月の大会運営，リサーチフォーラムなどの運営が行なわれています。ご自分の各年度の年会費納入状況については，以下の「会員情報管理システム」にログインすることにより確認が可能です。

https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/AAE

なお，納入状況に疑問がある場合には，本部事務局支局（ガリレオ社）アドレスにお問い合わせ下さい。

留意事項

次年度学会誌（第41号）への投稿並びに次年度大会（ 第42回大会）での口頭発表に際しては，投稿や申込みの時点で以下の２つの条件を満たしている必要があります。

①会員登録をしていること

②当該年度（2019会計年度）までの年会費を全て納入済みであること。

＊ 会費を２年間滞納した場合は，会員資格を失います。

■会費振り込み口座名，番号

同封の振込用紙，郵便局にある払込用紙，銀行等からの振替により，下記の新しい口座に納入してください。

銀行名：ゆうちょ銀行

口座記号番号：00140-9-551193

口座名称：美術科教育学会本部事務局支局

通信欄には，「2018会計年度会費」等，会費の年度および会員ID 番号を記入してください。また，ゆうちょ銀行以外の銀行からの振込の受取口座として利用される場合は下記内容を指定してください。

店名（ 店番）：〇一九（ ゼロイチキユウ）店（019）

預金種目：当座　　口座番号：0551193

■大学院生等への会費減額措置（申請は毎年必要）

大学院生等は，所定の手続きにより，年会費を半額（4,000円）に減額する措置を受けることができます。会費減額措置を希望する大学院生等は，毎年５月中に各自，申請手続きをすることになっています。申請しない場合は，減額措置を受けられません。未だ手続きがお済みでない方は，学会ウェブサイトをご参照ください。

http://www.artedu.jp/bbg4um0dy-8/#_8

■学会誌第40号に投稿され，掲載負担金について公費払いを予定している会員の皆様へ

学会誌第40号に投稿された会員で，掲載が許可された後，掲載負担金について公費払いを予定している会員の皆様にお知らせ致します。公費払いとは，大学研究費や科学研究費補助金などで支払うことをさしています。掲載負担金の請求は，掲載ページ数が確定した時点（３月初旬を予定）でお伝えします。本部事務局支局からの請求書にしたがってお振込みください。ただし，各所属先が求める形式で請求書類を別途用意しなくてはならない場合は，そこから本部事務局支局と相談・交渉し始めたのでは，手続きが間にあわないことがあります。以下の留意点を読み，各所属先で前もってご確認いただき，相談・交渉するなど今から準備を始めて下さい。

＜留意事項＞

１．原則として，必要な書類は，投稿者自身で作成いただき，書類等に捺印が必要な場合は，本部事務局支局までお送りください。作成いただく書類は，本部事務局支局からの「振込負担金請求書」以外の書類全てとなります。また，送付前に事前に以下までご連絡下さい。

２．投稿者自身による「立替払い」を原則と致します。

３．上記1，２を原則としますが，大学事務局と本部事務局支局が直接やり取りをしなければいけないケースがあります。この場合には，以下まで，手続きの概要，事務担当者の連絡先などをメールで知らせて下さい。

美術科教育学会 本部事務局支局

〒170-0002 豊島区巣鴨1-24-1 第2 ユニオンビル4 階

（株）ガリレオ　東京オフィス　担当者　和久津　君子氏

[窓口アドレス]　g030aae-mng@ml.gakkai.ne.jp

迅速な手続きのため，ご確認及びご準備について，ご協力をよろしくお願い致します。

■住所・所属等変更，退会手続き

住所，所属先等に変更のあった方は，すみやかに本部事務局支局までご連絡ください。退会を希望される場合は，電子メールではなく，必ず文書（退会希望日を明記してください）を郵送にてお送りください。あわせて，在籍最終年度までの会費納入完了をお願いします。

美術科教育学会 本部事務局 支局

（2018年６月より下記のように住所表記が変更されました）

〒170-0002 豊島区巣鴨1-24-1-4F

(株)ガリレオ　東京オフィス　担当者　和久津　君子

[窓口アドレス]g030aae-mng@ml.gakkai.ne.jp

美術科教育学会 本部事務局

■ 聖心女子大学　〒150-8938　東京都渋谷区広尾 4-3-1　聖心女子大学文学部

水島尚喜（代表理事）mizusima@u-sacred-heart.ac.jp　TEL 03-3407-5811

■ 東京学芸大学　〒184-8501　東京都小金井市貫井北町4-1-1　東京学芸大学　芸術・スポーツ科学系

相田隆司（総務担当副代表理事／本部事務局長／庶務・会計・規約）t-aida@u-gakugei.ac.jp TEL 042-329-7594

西村徳行（学会通信・学会名簿・会費管理）nishimur@u-gakugei.ac.jp TEL 042-329-7608

笠原広一（本部事務局運営委員／学会通信）kasahara@u-gakugei.ac.jp　TEL 042-329-7610

■ 横浜国立大学　〒240-8502　神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2　横浜国立大学教育学部

大泉義一（ウェブ・メール配信）oizumi@ynu.ac.jp TEL045-339-3453

■ 三重大学　〒514－8507　三重県津市栗真町屋町1577　三重大学教育学部

上山　浩（ウェブ・J-Stage）　ueyama@edu.mie-u.ac.jp　TEL 059-231-9280

美術科教育学会 本部事務局 支局

■ （株）ガリレオ（www.galileo.co.jp）　東京オフィス　〒170-0002　豊島区巣鴨1-24-1-4 F

（担当者　和久津君子 ）　TEL: 03-5981-9824　FAX: 03-5981-9852